

**積算システムにおける  
施工パッケージの材料に支給品及び管理費区分の  
設定がある場合の対象額算定の端数処理について**

施工パッケージで材料に支給品及び管理費区分の設定がある場合の対象額算定の端数処理は、積算システムでは以下のとおりに積算されています。

**《計算例（支給品）》**

- ・ 施工パッケージ名称：L型擁壁
- ・ 条 件 区 分：コンクリート規格 各種、鉄筋量 0.08t/m<sup>3</sup> 以上 0.10t/m<sup>3</sup> 未満、基礎砕石有り、均しコンクリート有り、仮囲い設置、養生、圧送管延長無し
- ・ 標 準 単 価：49,468 円

→生コンクリートが支給された場合の施工パッケージ単位当たりの【支給品費】及び【支給品が控除された積算単価】を算出

L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)
K		2.33	—	—
	K1	コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m <sup>3</sup> /h	51,800	51,800
	K2	発電機 26MJ(30、100kcal)	747	747
	K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	416	416
R		41.31	—	—
	R1	普通作業員	20,200	21,100
	R2	型わく工	25,100	25,600
	R3	土木一般世話役	24,200	25,100
	R4	特殊作業員	23,200	24,400
Z		44.27	—	—
	Z1	生コンクリート	13,900	<u>11,000</u> (支給品)
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16~25	72,000	76,000
	Z3	灯油 白灯油 業務用	74	84
	Z4	軽油 1.2号	110	120
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	12.09	66,500	65,500

※ 機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の単価とする。

## 【支給品費】

$$\text{支給品費} = 49,468 \times \left( \frac{28.73}{100} \times \frac{11,000}{13,900} \right) = 49,468 \times 0.22736 = 11,247.04448$$

〔小数5位止め6位四捨五入〕

$$\approx 11,250(\text{円}/m^3)$$

※ 支給品費は、有効4桁、5桁目以降切り上げ、小数点以下切り捨て整数止め。ただし、一円未満は一円。

## 【支給品費が控除された積算単価】

$$\begin{aligned} \text{支給品費が控除された積算単価} &= (\text{端数調整後の積算単価}) - (\text{端数調整後の支給品費}) \\ &= 47,630 - 11,250 = 36,380(\text{円}/m^3) \end{aligned}$$

## 《計算例（管理費区分）》

- ・ 施工パッケージ名称：橋梁用高欄
- ・ 条 件 区 分：設置、組立式
- ・ 標 準 単 価：44,250 円

→橋梁用高欄(鋼製・ダクタイル製)に管理費区分「5」を設定された場合の施工パッケージ単位当たりの管理費区分「5」の単価を算出

## 橋梁用高欄の代表規格・構成比

	規格	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)
R		7.11	—	—
	R1 普通作業員	5.47	20,200	21,100
	R2 土木一般世話役	1.64	24,200	25,100
Z		92.89	—	—
	Z1 橋梁用高欄(鋼製・ダクタイル製)	92.89	41,100	40,000 (管理費区分：5)

※ 機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の単価とする。

$$\text{管理費区分「5」} = 44,250 \times \left( \frac{92.89}{100} \times \frac{40,000}{41,100} \right) = 44,250 \times 0.90404 = 40,003.77000$$

〔小数5位止め6位四捨五入〕

$$\approx 40,010(\text{円}/m^3)$$

※ 管理費区分の算定上の単価は、有効4桁、5桁目以降切り上げ、小数点以下切り捨て整数止め。ただし、一円未満は一円。